令和８年度 愛知県道徳教育研究会
みよし大会

「考え、議論する道徳」の実装に向けて

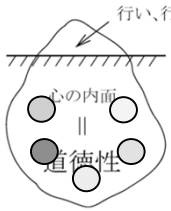
畿央大学　島　恒 生

1

道徳教育…　自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

道徳性……　内面的資質
行いや行動そのものではなく、それを支える見方や感じ方、考え方。

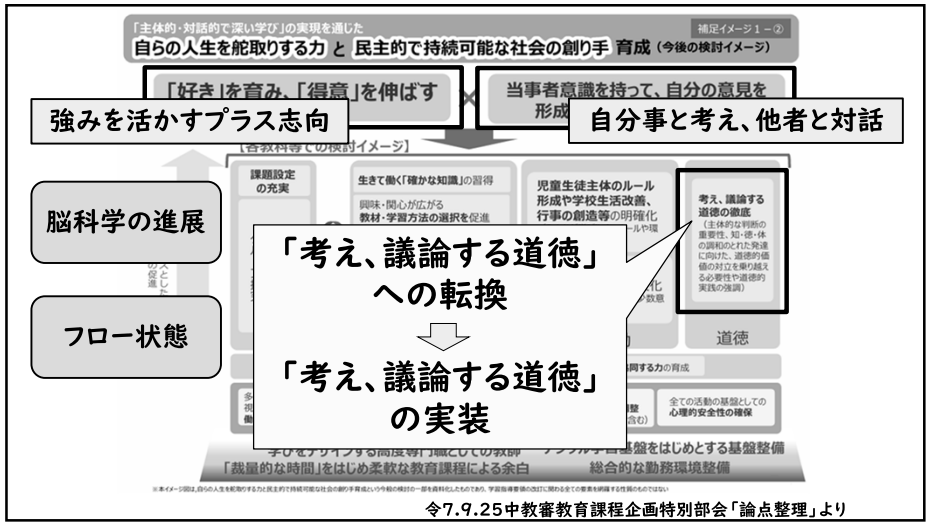
見方や感じ方、考え方を広げ、深めることで、主体的に判断し行動する「自立」をめざす。



正直にする。

なぜ、正直であることは大切か。

2



令7.9.25中教審教育課程企画特別部会「論点整理」より

3

「道徳科」の実践に向けての課題

質的転換は道半ば

- 発達の段階などを十分に踏まえず、児童生徒に望ましいと思われる分かりきったことを言わせたり書かせたりする授業になっている例がある。
- 読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われる例がある。

中教審答申「道徳に係る教育課程の改善について」（平成26年10月

学級集団をフロー状態に

プラス志向

主体的・対話的で深い学びのある授業！

分かったか？

あなたたち、すごいね！

ただし、児童の側も、道徳科の時間は、自分たちが活躍する時間であることの意識が重要!!

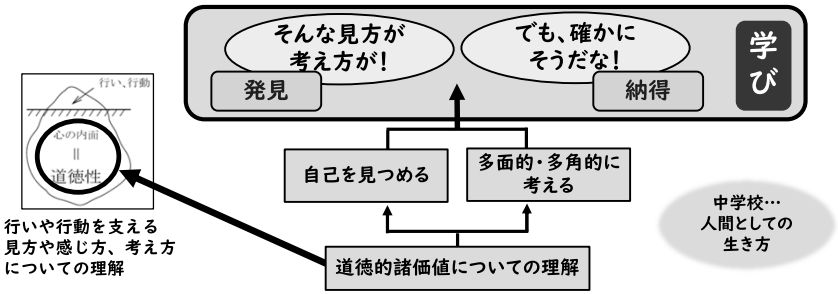
「考え、議論する道徳」で！

実装！

4

道徳科の学習

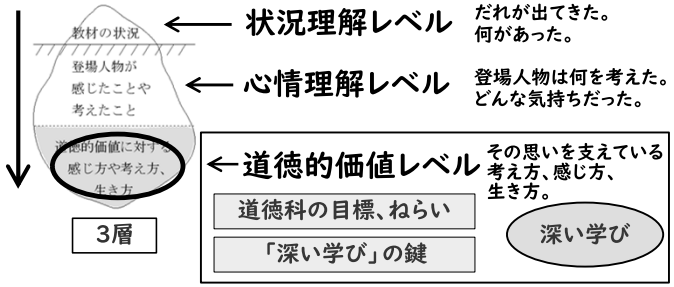
道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，自己の生き方についての考えを深める学習



5

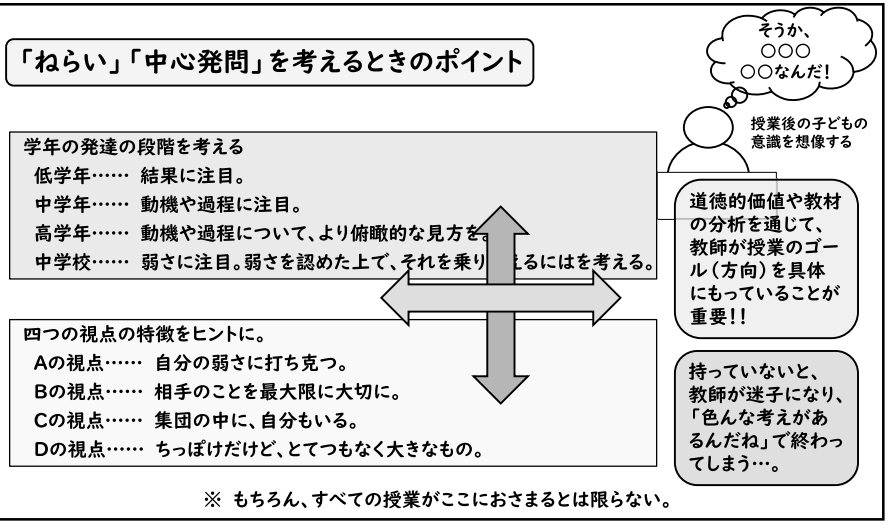
道徳的価値レベルの学びを

深い学びのために、3層で考える



6

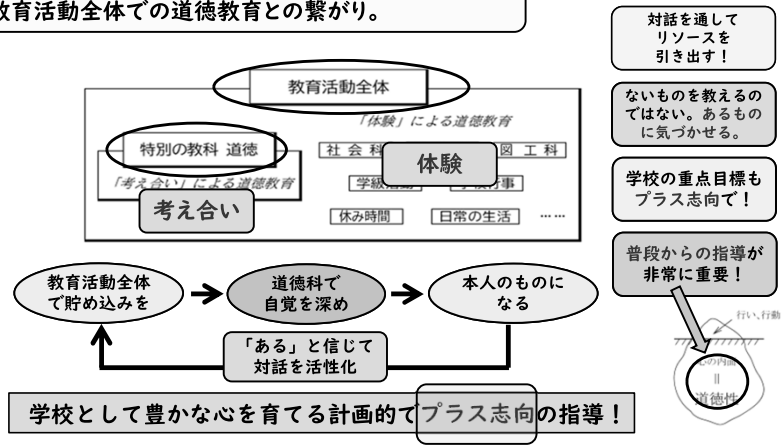
「ねらい」「中心発問」を考えるときのポイント



※ もちろん、すべての授業がここにおさまるとは限らない。

7

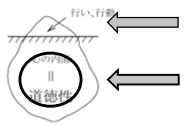
4．「ある」ものに気づかせるプラス志向。
5．教育活動全体での道徳教育との繋がり。



学校として豊かな心を育てる計画的でプラス志向の指導！

8

正直、誠実



低学年 ✓正直であることは、自分にとっても気持ちがいいことを理解し、……。
もやもや → すっきり

中学年 ✓正直であることは、自分の心の中の嘘つきの心に負けず、正直な心を大切にすることであることを理解し
うそつきの心に負けない

高学年 ✓正直であることは、自分の生き方に対して誠実であることを理解し、……。
自分の生き方に誠実

中学校 ✓正直であることは、ごまかせるかも知れないという心の弱さに打ち克つ自分の誇りや生き方から生まれることを理解し、……。
誇りや値打ちから生まれる誠実さ

9

目指す道徳教育、道徳科の授業は

- 先生が大きな声でしゃべる「伝達型」の「教える」授業から、子どもが「考え、議論」し、子どもが「つかむ」授業。子どもたちの中に議論の渦を作る！
- 教師はねらいをしっかりと持ち、ただし、いちいち指導案を見に行くのではなく、子どもたちと共に考え合う姿勢でコーディネートやファシリテートを！そのためにも、シンプルな展開で、対話を通して深く考え合える授業を！
- プラス志向で、子どもの発言の中の「ねらい」につながる「ダイヤモンドの原石」をじっと待つ。それが出たらさりげなく全体の話題にし、そこに議論を集中させ、子どもが発見、納得できるようにする！

✓ 子どもの発見、納得は、子どもの中にリソースが必要。教育活動全体を通した、日々の道徳教育の充実を、教職員みんなで取り組む！

10

教師も共に考える姿勢で学級集団をフロー状態に。

「間」

教師のファシリテートを

大きな意見
すぐに出る
みんなが言う

小さな意見
つぶやき
少数意見
ダイヤモンドの原石

ねらいにつながる意見
立ち止まりたい意
全体に対して分からないフリ
どういうこと?
もう一度、説明させる
うなづいている子どもに!
さらに全体に! チョークも子どもに

ダイヤモンドの原石を見抜くために

発達の段階を考えた「ねらい」を子どもの言葉で具体に持つ

ダイヤモンドの原石を、みんなで磨いて、ダイヤモンドにする。

11

教師も共に考える姿勢で学級集団をフロー状態に。

「間」

- いちいち指導案を見ず、思考の流れを途切れさせない。
- 思わず手を挙げる、つぶやく、言いたくなる雰囲気を。
- 意見が出たあと、周りの子どもは反応している。すぐに背を向けないで、しっかり反応をつかみ、活かす。
- 子どもの意見の説明は周りの子どもたちに。「なるほど」「つまり」「例えば、」「～たら、」は子どもが言うこと。
- 板書はまとめて書き、そこでも議論を誘発させる。

ダイヤモンドの原石を、みんなで磨

12